

青字は私見です

## ルール

- 1：現行ルールの「入・退場」を廃止し、略式の整列をオフィシャルにする。  
線審4名体制はそのままオフィシャルとし、2名体制の場合は大会ルールで記述するように
- 2：プレーヤー兼監督は複数チームの兼務は出来ない。  
専任監督は複数チームの監督兼任を可とするが、監督マークを着用すること
- 3：主審の判定を明確化し、危険回避及びボールの破損を防ぐため、必要のない装身具を身に着けない。  
主審の判定をあいまいにするもの、プレーを中断させる可能性のあるものを指すそうです。  
開始集合時に主審、副審は選手の服装等をチェック、上記に当たるものを身に着けている場合は、外す、テーピングする等の指示をする
- 5：セット間の水分補給については大会・会場ルールで規定しそれに従う。
- 6：吹笛種別変更 中音から単音に変更  
ポール外側通過及び、サーブされたボールがネットに当たった場合  
プレーを止めるための中音はなくなり、反則の中音のみになります。
- 7：副審の吹笛項目追加  
線審のシグナルに対し、主審が気付かないとき
- 8：線審の責務 解説変更  
主審・副審が気付かなければコート内に入ってゲームを止める この文面が削除されました。

## 運用・技法

- 1：シフト表の記載項目について  
ゲーム開始時のシフト表提出にあたり主審は整列選手の番号をシフト表と照らし合わせる。  
その際にいないメンバー、記載ないメンバーについてはその試合に出られない。  
(ブロックとしては現行シフト表に2名分の番号記入欄を設けることで対応)
- 2：副審がシフト確認の際自身のシフト管理に自信を持ってない(シフト表と合わない)場合は  
ポール前から動かない。  
主審は副審を呼び状況確認、主審も明確でない場合、両キャプテンを呼び、状況報告  
現状のシフトで(シフト表に合わせず)進行する旨伝えプレー再開する。  
主審が確認できている場合はその指示で処理可能。  
これはシフト管理に自信のない副審に対する処理方法で、能力が備わるまでの暫定処理とお考え下さい。  
現状B級認定、再講習で具体的なシフト管理指導はされておりません、いばらき協会で指導している方法を徹底しましょう。  
この行為はシフト間違いのチームに気づきを与えるケースでもあります、シフトの管理は副審の重要責務です、サーバーの確認(必ず番号とシフトを確認、サーブが続いていても)、サーバー対角の選手も確認、守備のアウトオブポジション基準を明確にしてからポール前を離れるようにしましょう。
- 3：審判団協議(相談時)について  
相談時は声を潜める必要はなく、選手に聞こえてもよいとのこと。小声での相談、しゃがむ必要はありません。聞こえないときは大きな声で、秘密にすることは無いそうです。  
(協議の際基本主審は審判台から降りないとのことですが、大きな主審が背の低い審判団に威圧を感じさせないため、しゃがむ、降りるということをすべて規制してはいませんとのこと。)